

「大里小・中学校の弓矢踊り・面踊り伝承活動の取組」

1 学校名

三島村立大里小・中学校

2 学年・人数

小学生 10 人 中学生 6 人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

7 月 10 日 (火) 3・4 校時 (本校集会室)

9 月 4 日 (火) 5 校時 (本校集会室)

9 月 26 日 (水) 3 校時 (本校校庭)

10 月 2 日 (火) 1～3 校時 (大里地区健康広場)

10 月 4 日 (木) 5・6 校時 (大里地区健康広場)

(2) 発表の日時・場所

10 月 6 日 (土) 大里地区・大里小・中学校大運動会 (大里地区健康広場)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

弓矢踊り・面踊り (ゆみやおどり・めんおどり)

(2) 由来

ア 弓矢踊り

1584 年、島原北部の沖田畷において、龍造寺隆信と、侵攻を受けた有馬晴信、有馬の援軍に向かった島津家久との間で勃発した戦をモチーフとしている。この時、家久の子豊久は 15 歳で参戦し、見事な若武者ぶりを披露した。その勇姿を表したものである

イ 面踊り

五穀豊穰と子孫繁栄、生産を祈る踊りで、手にはメシゲ (しゃもじ) と播り粉末を、腰にはひょうたんを持ち、生産を意味している。

(3) 構成等

ア 弓矢踊り

最初はゆっくりとした調子で、烏帽子をかぶった島津軍と兜をかぶった龍造寺軍の二列にわかれ、鉦と太鼓の音で入場してくる。各列先頭の二人が島津豊久役と龍造寺隆信役となり、お互いの口上を述べた後、地唄手 (ジュウテイ) の唄に合わせて、鉦や太鼓で調子を取りながら優美に踊る。左手に弓、背には矢筒。弓を左右に大きく振りながら前後に動き、矢筒より矢を取り出し、弓につがえ、弓を射る様子を表現している。途中から、調子が早くなり、鉦と太鼓が両軍の間を片足跳びで移動すると、両軍の踊りも唄と共に素早くなってくる。

イ 面踊り

思い思いのボロをまとい、ビロウの葉、シュロの皮、ガジュマル根等で身を飾り、腰にはひょうたんを下げ、顔には鬼、おかめ、ひょっとこ、かっぱ等の異相の面をかぶり、右手にはメシゲ、左手に播り粉末を持つ

た「メン」たちが、二組に分かれ、「ヒョウ、ヒョウ」という奇抜なかかけ声を出しながら出てきて踊る。地唄手（ジュウテイ）の唄に合わせて、メシゲと播り粉木を頭上で軽くたたき合い、片足跳びをしながら地面に座った「メン」の前後を移動する。メシゲと播り粉木で軽く両脇に触れて、次の「メン」に受け継ぎ交代する。

5 保存会や地域との連携の具体

地唄手（ジュウテイ）の方々3人を、「ふるさと先生」として学校に来ていただき、踊り方等のご指導を依頼している。衣装合わせや踊り揃えなど、子ども会や地区の協力もいただいている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 小・中学校の弓矢踊りと面踊りの練習の時間を合わせた。
- (2) 小中合同の練習時、「ふるさと先生」を招聘し指導をお願いした。
- (3) 弓矢踊りで使う弓・矢を修理した（弓・矢の装飾を新しく行った）。
- (4) 運動会に向けての最後の練習で実際の衣装を着けて練習できるよう保護者に着付けを文章で依頼した（踊り揃え）。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ 職員 地元の子どもたちはもちろん、しおかぜ留学生の子どもたちも意欲的に取り組むことができた。踊るだけではなく、背景にある歴史などを学ぶことも必要なのでより力を入れていけたらと思う。地唄手さんだけでなく、地元のおとなも参加しての踊りになれば、子どもたちの意欲喚起にもつながりそうである。
- ・ 生徒 1回目の口上の練習から大声で言ったので、リズムがおかしくないか不安でしたが、練習を重ねていくうちに自信がついて、本番で堂々と述べることができました。大好きな大里の伝統をしっかりと引き継いでいきたいです。